TOYOTA BOSHOKU KYUSHU

トヨタ紡織九州のDXの取り組み

トヨタ紡織九州株式会社
管理部 DX推進G

目次

１．DX推進宣言

２．DXビジョン

３．変革の方向性と戦略

４．実現に向けた戦略

５．情報セキュリティ体制

６．成果を計る指標（KPI）

1．DX推進宣言

当社は、DX推進を経営戦略の中核に位置づけます。
目的は、データとデジタル技術によって既存業務を高度化し、
「お客様に感動を与え、信頼され選ばれるサプライヤー」という経営ビジョンを
確かなものにすることです。

EVシフト、AIの急速な普及、国際情勢の変化、少子高齢化、カーボンニュートラル。
これらの環境変化は、従来の「ものづくり」のあり方そのものを問い直しています。
当社はこれを脅威ではなく競争優位へ転換する機会と捉え、次の３つを推進します。

・データドリブン経営の実現
・業務効率化による高付加価値業務へのシフト
・スマートファクトリーの実現による地域社会への貢献

全てのステークホルダーの皆様とともに、持続的に成長してまいります。



代表取締役社長

今枝 務

2．DXビジョン

TOYOTA BOSHOKU KYUSHU

内部・外部環境分析

・EV化・CASE加速
・AIの急速な普及
・サプライチェーン構造変化
・カーボンニュートラル・ESG要求

経営ビジョン

目指す企業像
明日の社会を見据え、ものづくりを通じてお客様に感動を与え、信頼され、選ばれるサプライヤーになる。

事業におけるありたい姿
「レクサス工場の具現化」と「お手本工場」を目指してお客様に感動を与えられる製品を提供する。

社会から見たありたい姿
全てのステークホルダーから信頼され、ともに成長する。

DXビジョン

1）データドリブン経営の実現

データの蓄積と分析により迅速かつ的確な意思決定を実現する。

2）業務効率化による高付加価値業務へのシフト

定型業務をAI・RPAで効率化し、余力を付加価値の高い業務へ振り向ける。

3）スマートファクトリーの実現による地域社会への貢献

可視化と分析で変化に迅速対応し、安定生産を通じて地域社会に貢献する。

３．変革の方向性と戦略

TOYOTA BOSHOKU KYUSHU

１）データドリブン経営の実現に向けて

・経営層・管理職向けのデータ活用教育
・全社データベースの整備と経営ダッシュボードの構築

２）業務効率化による高付加価値業務へのシフトに向けて

・全社員のDXリテラシー底上げ
・定型業務の可視化と自働化、AI活用による属人性の排除

３）スマートファクトリーの実現による地域社会への貢献に向けて

・推進人財の実践スキル習得
・工程情報のIoTによるリアルタイム収集と可視化

４）３項目を支える共通基盤

・IT基盤強化（セキュリティ強化とガバナンス体制確立）
・取り組み事例の社内共有
・KPIの可視化と定期モニタリング

4．実現に向けた戦略

TOYOTA BOSHOKU KYUSHU

■デジタル人財・組織

当社はDX推進グループを設立して全社的な変革を目指しています。
組織を超えた連携体制を構築し、経営層が参加する「DX推進会議」を定期的に開催しています。

〈 DX推進体制 〉

取締役会
四半期モニタリング　　DX施策執行の評価・方針への反映

DX推進会議

議長：代表取締役社長
副議長：DX担当取締役
参加者：全担当役員・部長・課長・室長

DX推進事務局　：　管理部　DX推進グループ
・全社DX会議
・事技/工場DXワーキンググループ
・内部/外部との人財・情報交流

〈外部交流〉
・トヨタ自動車九州株式会社
・佐賀県産業スマート化センター　他

DX推進会議とは？

経営層および各部の代表者がDX推進の進捗を継続的にレビュー、課題を共有し方向性を決める。

DX推進グループの役割とは？

IT領域含め、一元的に管理・推進し、定期的な経営層との対話により迅速な意思決定に導く。

4．実現に向けた戦略

TOYOTA BOSHOKU KYUSHU

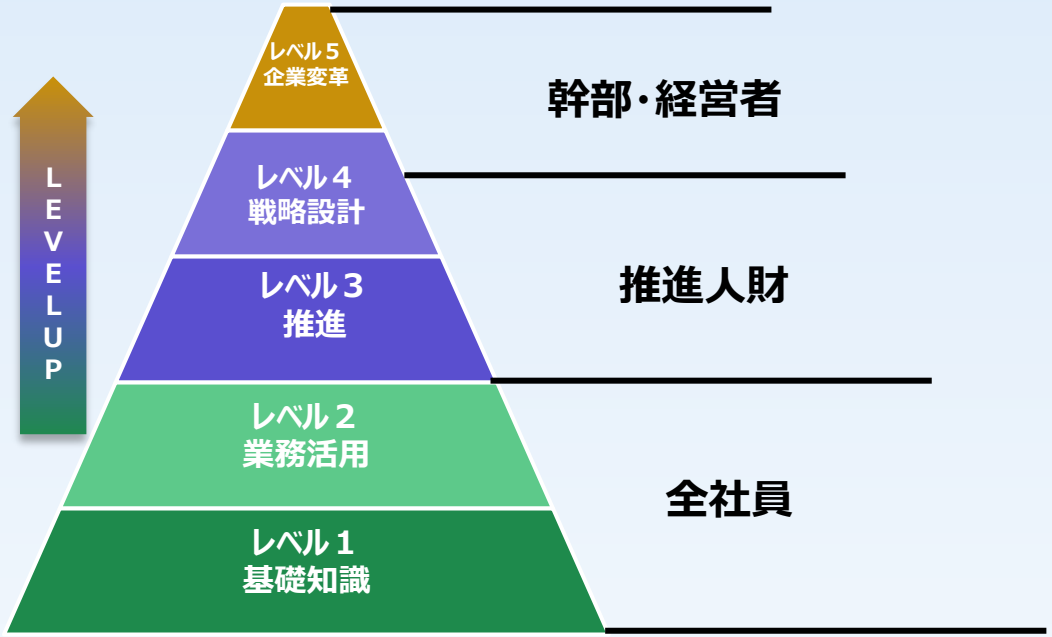
■デジタル人財の育成と拡充

社内に「DXLab」（体験型教育施設）を整備し、全社員のDXリテラシーを底上げします。
あわせて、階層と役割に応じた教育プログラムにより、実践スキルの習得を進めます。

・DXLab（体験型教育施設）



・階層・役割別教育プログラム



4．実現に向けた戦略

TOYOTA BOSHOKU KYUSHU

実践事例１〈社内外人財育成･交流〉

◆社内人財育成･交流

狙い	･組織全体でのデジタルスキルの向上
実施内容	･DXLab運用によるDXリテラシー教育、社内外改善事例･新技術共有 ･事技/工場DXワーキンググループ活動
期待効果	･全社DXリテラシーの底上げ、現場起点でのアイデア創出活性化



みんなでDXについて気軽に学び
共有できる場所を整備

◆外部人財育成･交流

狙い	･新規デジタルスキルの修得
実施内容	･取引先企業･大学等との技術交流会参画
期待効果	･自社のレベル把握、新たな知見･人脈獲得による業務改革 アイデアスキル向上



学生と共に現地現物にてデータ
活用による課題解決活動を実施

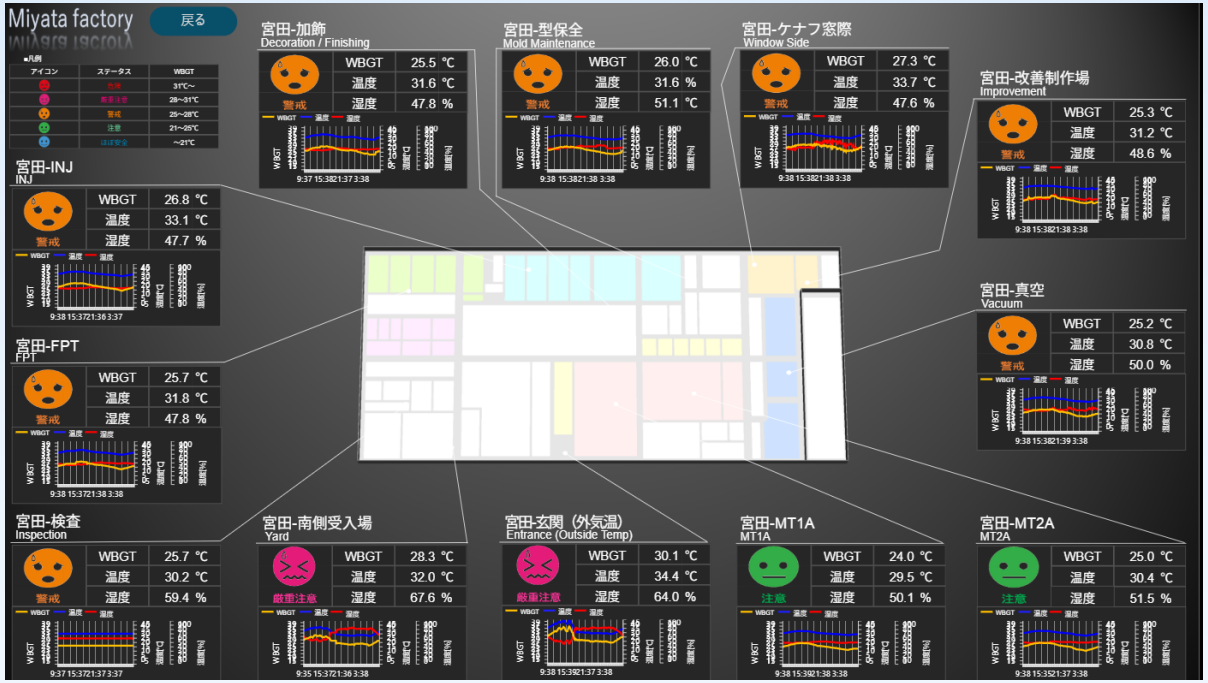
4．実現に向けた戦略

TOYOTA BOSHOKU KYUSHU

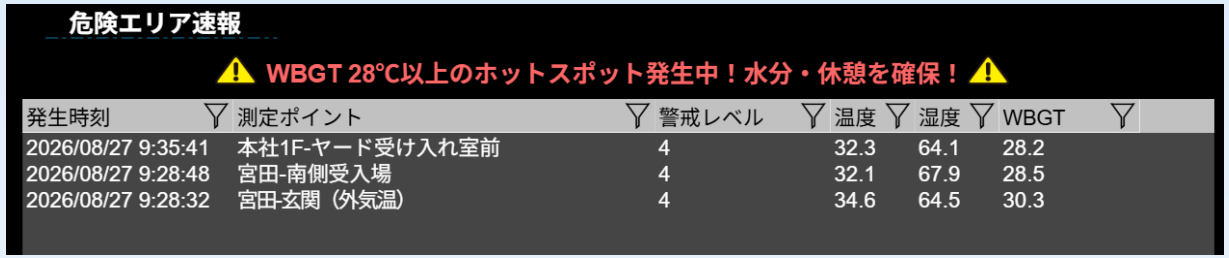
実践事例２〈IT/データ活用基盤〉

◆ WBGTデータ（近似値）のリアルタイム収集・可視化による熱中症対策

工場の暑熱環境をリアルタイムに収集・可視化し、データに基づく熱中症リスクの予測と迅速な対応を実現することで、
従業員の安全確保と生産ラインの安定稼働につなげています。



・工場内のWBGTデータ（近似値）をリアルタイムで収集・可視化し、
データに基づく熱中症予防と安全管理を実現する



・WBGT閾値超過エリアを自動検知・通知し、熱中症リスクの早期発見と
迅速な対策につなげる

4．実現に向けた戦略

TOYOTA BOSHOKU KYUSHU

実践事例３〈IT/データ活用基盤〉

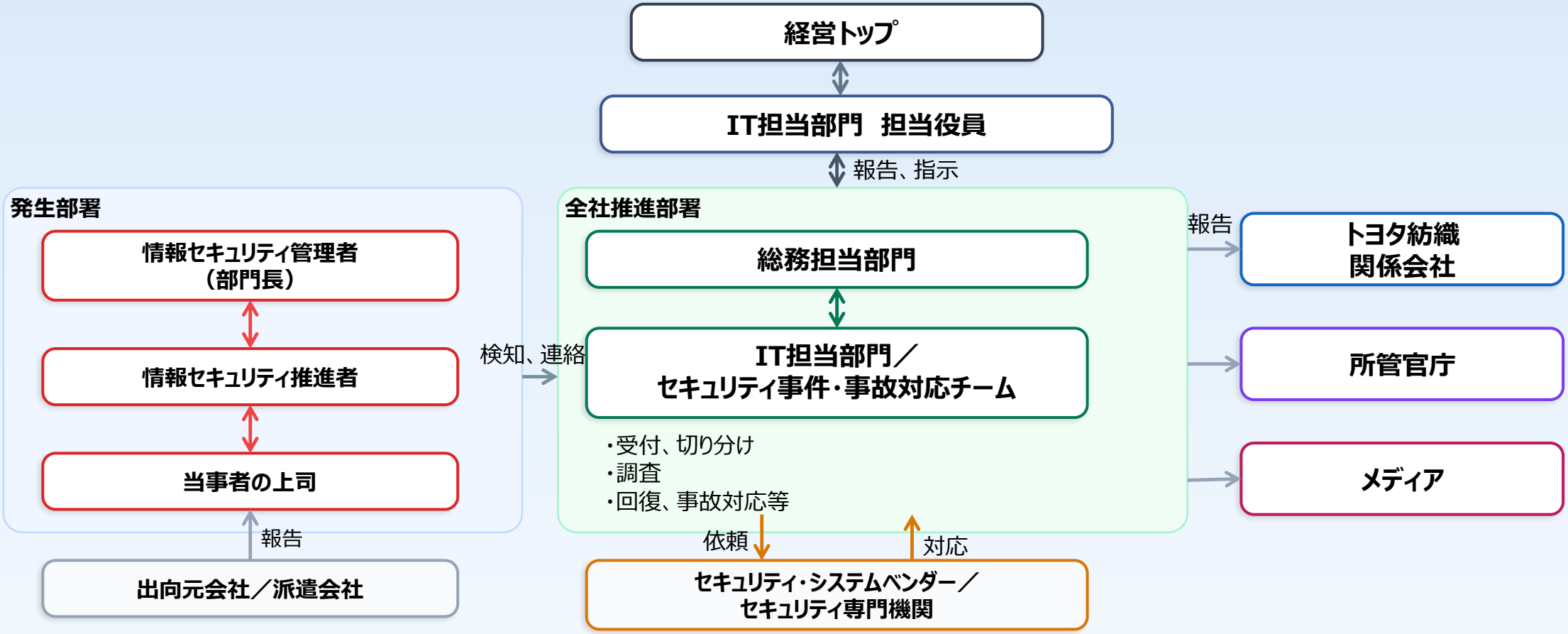
◆データ活用基盤整備

月次更新されていた経営状況データをリアルタイムに把握・分析が出来る基盤整備を進めています。



5．情報セキュリティ体制

当社では、ステークホルダーに安心なサービスを提供するために情報の取り扱いにも十分に配慮し、
セキュリティをより強固なものにしていきます。



6．成果を計る指標（KPI）

TOYOTA BOSHOKU KYUSHU

項目･施策	KPI（2030年度）	2026年度 時点	KPI設定の理由
共通基盤： デジタル人財の育成	DXLab来場率　　：100% （パソコン利用者） DX人財レベル1受講率　：100% 経営層向け教育受講率：100%	DXLab立ち上げ完了･運用開始 （パソコン利用者） DX人財レベル1受講開始 経営層向け教育受講開始	全職場のDX風土醸成･知識の 底上げによる全社DX推進体制を 確立する。
1）データドリブン 経営の実現	経営者出席会議体資料 ダッシュボード利用率：100%	ダッシュボード基盤構築中	社内にデータドリブンを浸透させ 意思決定をスピーディにする。
2）業務効率化による 高付加価値 業務へのシフト	定型業務工数80%削減	定型業務の効率化推進中	定型業務の効率化により創出した 余力を活用する。
3）スマートファクトリーの 実現による地域 社会への貢献	工程情報の可視化率　：100% 地域課題解決へのスマート 技術転換件数　　：5件	工程情報の可視化推進中 優先課題選定中	データに基づく問題提起･改善･ 効果確認を誰もがスピーディに 行えるようにする。